本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。

CASIO

カシオ リチウム クロノ 95

使用説明書

製品仕様

水晶発振周波数：32.768Hz
常温携帯精度：平均月差±15秒以内
表　示　方　式：FE型液晶デジタル表示
基　本　機　能：時刻表示＝時・分・秒・午前／午後・曜日
　　カレンダー表示＝年・月・日・曜日（年は西暦年の下２桁を表示）
ストップウォッチ：計測単位＝1/100秒
機　　能：計測範囲＝６時間59分59秒99（以後０に戻り自動スタート）
　　計測機能＝通常計測・積算計測・ラップ計測・1･2着同時計測
デュアルタイム機能：表示内容＝時・分・秒・午前／午後
セ　ッ　ト　機　構：時刻・カレンダーセット機構　秒合わせ機構（±30秒クリア）
　　デュアルタイムセット機構
そ　　の　　他：24時間制表示機能
　　完全無修正フルオートカレンダー機能（西暦1970～2029年）
主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子　ワンチップC/MOS-LSI
使　用　電　池：リチウム電池（BR-2320）１個　電池別途販売
電　池　寿　命：約５年（ライトを１日３秒点灯した場合）

ご使用上の注意

カシオトロンをいつまでも高精度でご愛用いただくため、下記の点を特にご留意ください。

(1) 極端に高い温度や、極端に低い温度条件下ではご使用にならないでください。機能が低下したり電池寿命を短くしたりする恐れがあります。

(2) 水が入りにくい構造になっていますが、精密な電子回路や部品を保護するために、入浴や海水浴、洗車時などの不確定な水圧が加わる恐れのあるときのご使用は避けてください。

(3) 通常の使用状態でのショックには耐えるよう設計されていますが、落としたり強い衝撃を与えますと故障の原因となりますので十分ご注意ください。

(4) この腕時計は、C/MOS-LSIや水晶振動子、それに液晶パネルなどの精密パーツで構成され組立てられていますので、時計の内部には絶対手をふれないでください。

(5) このカシオトロンを腕から外したり、長期にわたってお使いにならないときは……

(a) 寒冷地や夏場の直射日光が当る場所には放置しないでください。

(b) 水蒸気がたったり、たちこめるような湿気が極端に多い場所で長時間放置したり、保存しないでください。

(c) 消耗した電池を入れたままにしておきますと、故障の原因になります。長時間お使いにならないときは電池を抜くか、約5年に一度電池を入れかえながら保存してください。なお、電池の出し入れは絶対にご自分でなさらないでください。

(6) ボタン操作は確実におこなってください。

(7) このカシオトロンに使用しているメタルバンドも汗やホコリでよごれます。汗をかいたときは、吸湿性の良い布などで水分を取り除いてください。また、ときどきは柔らかい歯ブラシ等を使い石けん水で部分洗いなどのお手入れをお願いします。(その際、時計本体には水がかからないようご注意ください。)

電池交換について

最初の電池は工場出荷時に組み込まれていますので、5年に満たないうちに寿命がきれることがあります。

電池が消耗しますと「内部照明のライトが点灯しなくなったり」「急に遅れが目立ったり」「表示が消えたり」「見にくくなります」このような症状があらわれたら電池交換を行なってください。

新しい電池とお取りかえいただきますとその後、約5年ご使用になれます。

電池交換は、精度や寿命、気密性の維持上必らずお求めのお店かお近くのカシオトロン取扱い店あるいは当社営業所・出張所・サービスセンターにお申しつけいただき当社指定のカシオトロン専用電池と交換してください。

カシオトロン専用電池以外の電池をご使用しますと時計の正常な働きをさまたげ、故障の原因ともなりますのでご注意ください。

液晶パネルの交換について

この時計には高品質のFE型液晶パネルを使用しておりますが、液晶はその性格上5年すぎますと、コントラストが低下したり、読みにくくなることがあります。その場合はお買いあげ店、またはカシオトロン取扱店へ交換をお申しつけください。実費にて申し受けます。

保証について

この時計の修理や調整のアフターサービスには、特殊な技術や治工具を必要としますので、万一修理や調整の必要が生じた場合には必ずお買いあげの店あるいは当社営業所・出張所にお申しつけください。この時計はお買いあげ後、1ヵ年以内に通常のご使用によって生じた自然故障や調整の必要が生じた場合は保証規定(保証書を参照)に基づき無償修理いたします。

無償保証期間中の有償修理(保証書裏面に記載)および無償保証期間経過後の修理は、実費を申し受けさせていただきます。

●この時計の性能部品の保有年数は7年を基準としています。ご使用条件にもよりますが修理可能期間はほぼこれに準じます。
(修理のとき一部代替部品を使わせていただくこともありますのでご了承ください)

●その他、ご不明の点「転居」「贈答」などの場合がありましたらお近くの当社営業所へお問い合わせください。

このたびは、カシオトロンをお買いあげくださいましてありがとうございます。末永くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取扱いくださいますようお願い申しあげます。

なお、ボタン操作は確実に行なっていただくのが望ましいのですが、もし、あやまったボタン操作を行なっても製品に障害を与えることは一切ありませんので、ご納得のゆくまで何回でもお試しください。

表示の見方と操作のしくみ

時刻表示

午後10時58分50秒（金曜日）



Ⓑ ボタン
「時刻・カレンダー合わせ」をするとき押します。
（先の細いキズのつきにくいもので押してください。）

午後表示
（午前はAMが点灯）

Ⓒ ボタン
押すごとに以下の ➡ のように表示が切替わります。

曜日

Ⓛ ボタン
押している間、ライトが点灯します。

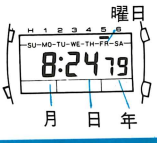
Ⓐ ボタン
「時刻表示」のとき、押している間「カレンダー表示」になります。

時　分　秒

※ストップウォッチ使用後はⒸボタンを押すと「時刻表示」に戻ります。

カレンダー表示

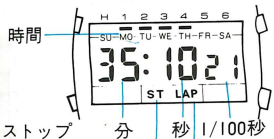
1979年8月24日金曜日



月　日　年

ストップウォッチ表示

4時間35分10秒21



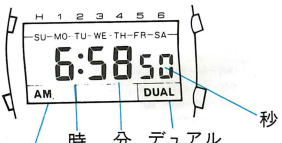
ストップウォッチマーク　分　秒　1/100秒　ラップマーク
（ラップ計測時のみ点灯）

※コロンは計測中は点滅、停止時1/100秒表示が00～49のとき点灯、50～99のとき不灯です。

※計測範囲＝6時間59分59秒99。以後0に戻ります。

デュアルタイム（別時計）表示

午前6時58分50秒



秒

時　分　デュアルタイムマーク

午前表示
（午後はPMが点灯）

※Ⓐボタンを押しても「カレンダー表示」になりません。

■ストップウォッチの使い方

Ⓒボタンを押し、ストップウォッチ表示（STが点灯）にします。

●通常の計測

〈スタート〉　Ⓐボタンを押す　……計測開始。（コロンが点滅し始めます）
〈ストップ〉　Ⓐボタンを押す　……計測停止。（コロンの点滅が止まります）
〈リセット〉　Ⓛボタンを押す　……表示が0に戻ります

※ロスタイムがある場合（積算計測のしかた）
ストップ後、リセットせずに再スタート（Ⓐボタンを押す）すれば、表示タイムに引き続き計測をはじめます。

●ラップタイム（途中経過時間）の計測

〈スタート〉　Ⓐボタンを押す　…計測開始。（コロンが点滅し始めます）
〈ラップ計測〉　Ⓛボタンを押す　…ラップタイムが表示されます（LAPが点灯します）
〈ラップ解除〉　Ⓛボタンを押す　…ラップが解除されます（LAPは消えます）
〈ストップ〉　Ⓐボタンを押す　…最終タイムが表示されます（コロンの点滅が止まります）
〈リセット〉　Ⓛボタンを押す　…表示が0に戻ります

●1着・2着のタイム計測

〈スタート〉　Ⓐボタンを押す…計測開始。（コロンが点滅し始めます）
〈1着がゴール〉　Ⓛボタンを押す…1着のタイムが表示されます（LAPが点灯します）
〈2着がゴール〉　Ⓐボタンを押す…表示はそのままです（コロンの点滅が止まります）
〈2着のタイムは〉　Ⓛボタンを押す…2着のタイムが表示されます（LAPは消えます）
〈リセット〉　Ⓛボタンを押す…表示は0に戻ります

※ストップウォッチ計測中にⒸボタンを押して、時刻表示あるいはデュアルタイム表示にしても計時には一切影響はありません。

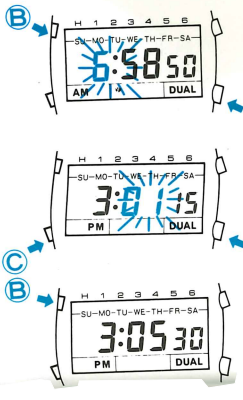
■デュアルタイム（別時計）の合わせ方

Ⓒボタンを押し、デュアルタイム表示（DUALが点灯）にします。

(1) デュアルタイム（別時計）表示のときⒷボタンを押すと「時」が点滅します。Ⓐボタンを押すごとに「時」が1つずつ進みますので合わせたい「時」に合わせます。
※12をすぎるごとにAM、PMが入れかわります。

(2) Ⓒボタンを押すと「分」が点滅します。Ⓐボタンを押すごとに「分」が1つずつ進みますので、合わせたい「分」に合わせます。

(3) 「時」・「分」のセットが終わりましたら、Ⓑボタンを押します。点滅が止まりセット完了です。
※「秒」は「時刻表示」の秒と連動しています。

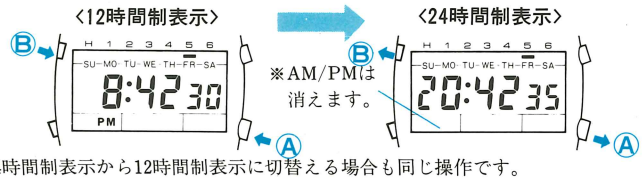


24時間制表示への切替え

「時刻表示」あるいは「デュアルタイム表示」の時刻を以下の操作で24時間制表示に切り替えられます。用途に合わせてお使い分けください。

●**切替え方**（下図は時刻表示の場合ですが、デュアルタイムのときも操作は同じです。）

Ⓐボタンを押したまま、Ⓑボタンを押し、両ボタンをはなします。



※24時間制表示から12時間制表示に切替える場合も同じ操作です。

時刻・カレンダーの合わせ方

■「秒」の合わせ方

30秒以内の遅れ進みは以下のように簡単に修正できます。月に一度ぐらいこの「秒合わせ」をしていただくと時計はいつも正確です。

【1】時刻表示のとき、Ⓑボタンを押すと「秒」が点滅します。



【2】時報の「ポーン」に合わせてⒶボタンを押すと「秒」が点滅しながら00秒からスタートします。さらにⒷボタンを押すと点滅は止まり、通常表示に戻ります。



秒表示が00～29のときは切捨てられ、30～59のときは1分くりあがって00秒からスタートします。

※時報は電話117番が便利です。

■「時」「分」「秒」「年」「月」「日」「曜日」の合わせ方

電池交換後など時刻およびカレンダーが合っていない場合は、以下の順序でセットしてください。

「秒」のセット

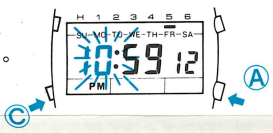
【1】時刻表示のとき Ⓑ ボタンを押すと「秒」が点滅して「秒合わせ」の状態になります。このとき前述のように時報に合わせてⒶボタンを押すと「秒」は点滅しながら00秒からスタートします。



「時」のセット

【2】「秒」のセットのあとⒸボタンを押すと「時」が点滅します。Ⓐボタンを押すごとに「時」が進みますので、合わせたい「時」にセットします。

※午前／午後の指定をまちがえないようご注意ください。A.M. P.M. は12をすぎるごとに入れ替わります。



「分」のセット

【3】「時」のセットのあとⒸボタンを押すと「分」が点滅しますので、Ⓐボタンで合わせたい「分」にセットします。



「年」のセット

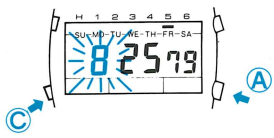
【4】「分」のセットのあとⒸボタンを押すと「年」が点滅しますので、Ⓐボタンで合わせたい「年」にセットします。

※「年」は、西暦1970～2029年までセット可能で、数字は29の次は70に戻ります。



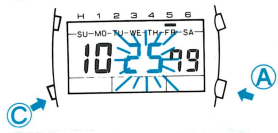
「月」のセット

【5】「年」のセットのあとⒸボタンを押すと「月」が点滅しますので、Ⓐボタンで合わせたい「月」にセットします。



「日」のセット

【6】「月」のセットのあとⒸボタンを押すと「日」が点滅しますので、Ⓐボタンで合わせたい「日」にセットします。



「曜日」のセット

【7】「日」のセットのあとⒸボタンを押すと「曜日」が点滅しますので、Ⓐボタンで合わせたい「曜日」にセットします。そのあとⒷボタンを押すと点滅は止まり、通常表示に戻ります。



時刻・カレンダー合わせのしくみ

●Ⓑボタンを押し「秒」を点滅させたあと、Ⓒボタンを押すごとに以下の順で点滅する個所が移動します。（「曜日」の次は「秒」に戻ります。）

秒 → 時 → 分 → 年 → 月 → 日 → 曜日

●どの個所も単独に修正できますので、Ⓒボタンで修正したい個所を選び、Ⓐボタンでセットします。

●セットが終われば、どの個所からでもⒷボタンを押すと通常表示に戻ります。

※修正中も時刻は正確にカウントを続けています。

この時計は大の月、小の月、うるう年も自動判別する「完全無修正フルオートカレンダー」ですので、1度カレンダーをセットすれば、電池交換時以外は修正する必要はありません。